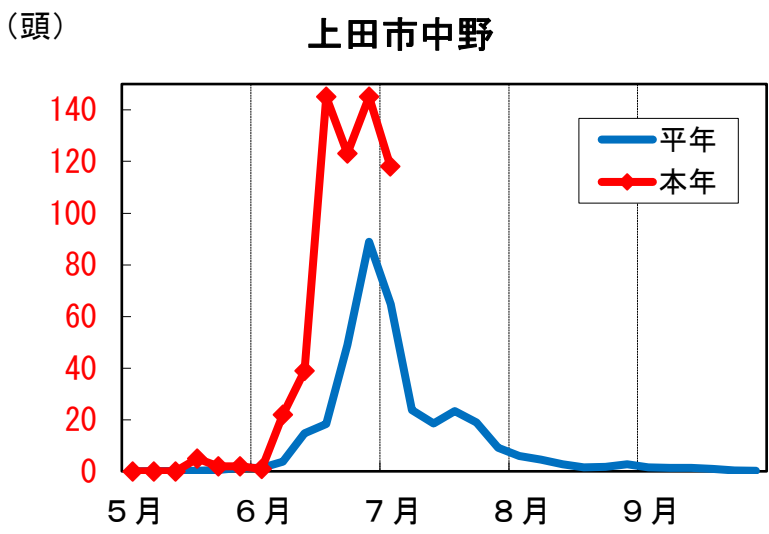
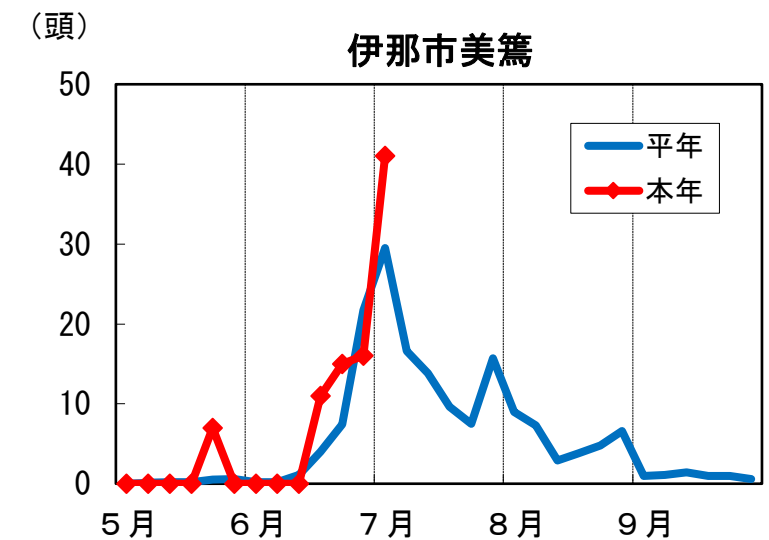


予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺消長【令和7年(2025年)】

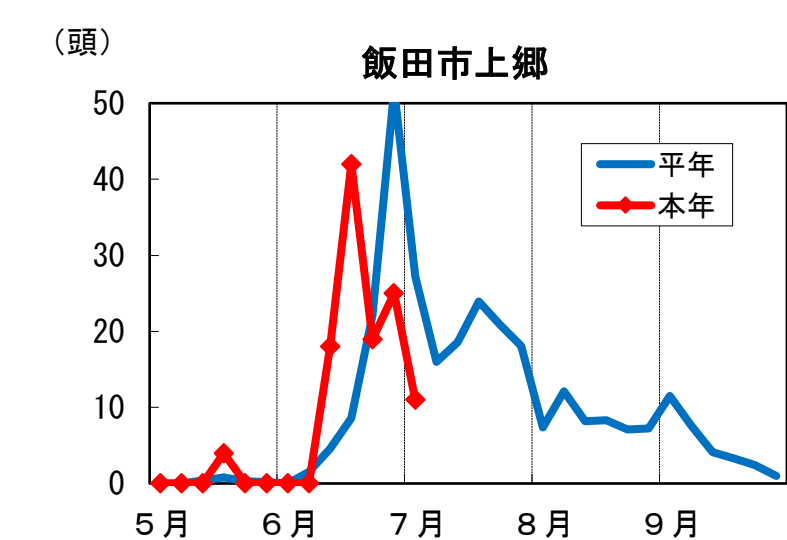


※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均

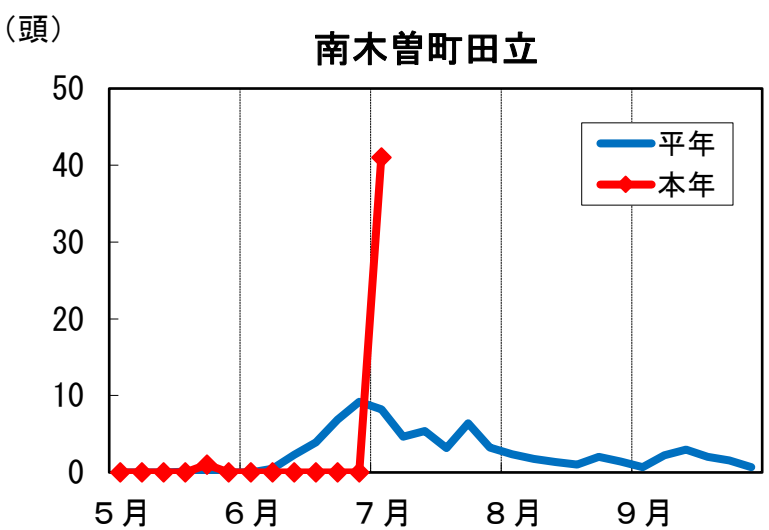
・上田市では、5月第4半旬に5頭初誘殺され、その後平年と比べ非常に多い誘殺頭数でした。
・伊那市では、5月第5半旬に7頭初誘殺され、その後平年と比べ多い誘殺頭数でした。
・飯田市では、5月第4半旬に4頭初誘殺され、その後発生ピークが6月第4半旬と平年と比べ2半旬早くなりました。誘殺頭数はほぼ平年並でした。
・南木曽町では、5月第5半旬に1頭初誘殺され、その後7月第1半旬は平年と比べ非常に多い誘殺頭数でした。
・安曇野市では、6月第4半旬に41頭初誘殺され、その後平年と比べ多い誘殺頭数でした。(5月第5半旬及び第6半旬、6月第6半旬、7月第1半旬は予察灯の電球切れのため欠調)
・須坂市(八重森)では、5月第4半旬に6頭初誘殺され、その後平年と比べ非常に多い誘殺頭数でした。
・須坂市(小河原)では、5月第5半旬に3頭初誘殺され、その後発生ピークが6月第4半旬と平年と比べ2半旬早くなりました。誘殺頭数はほぼ平年並でした。



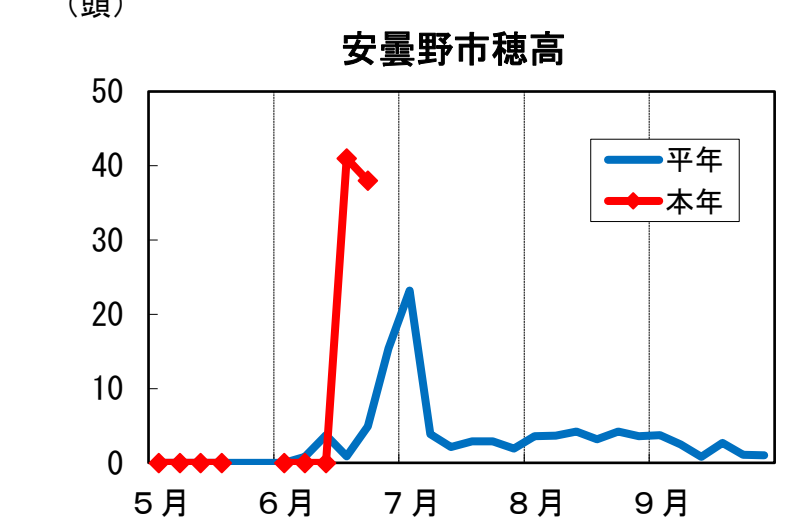
※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



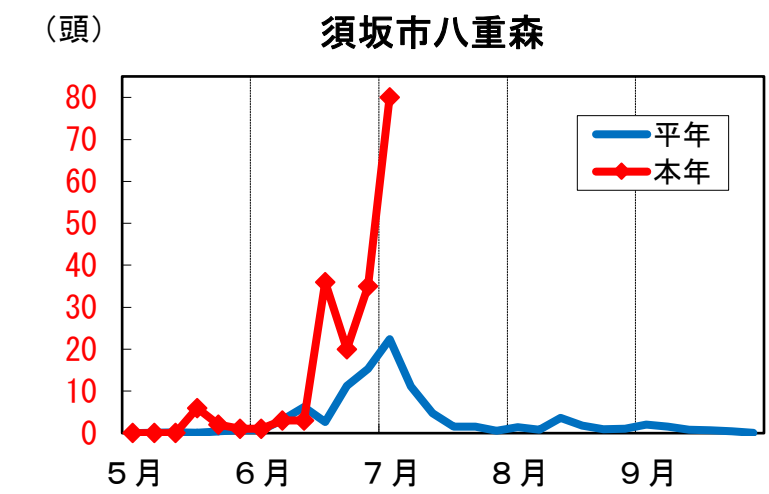
※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



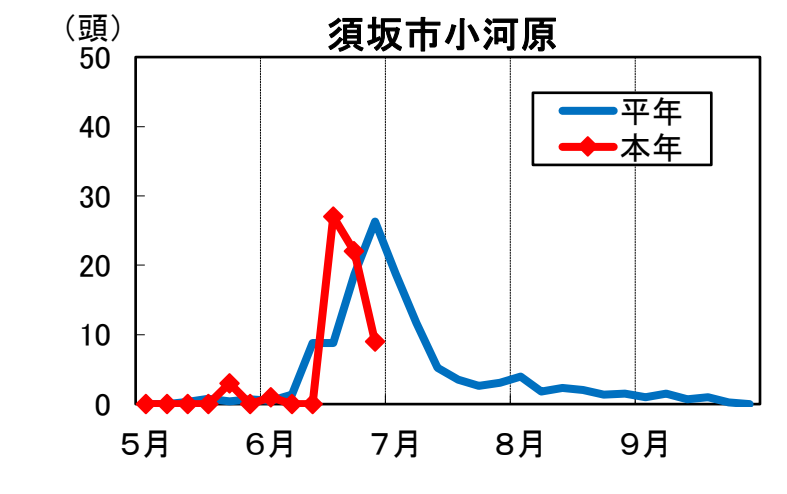
※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均

(参考)

1 発生生態

斑点米を発生させる主要害虫のアカヒゲホソミドリカスミカメは水田周辺の雑草地で年4～5世代発生を繰り返します。主として7月中旬以降に発生する第2世代成虫がイネの出穂に伴い水田へ侵入、稲穂にとりついて吸汁加害します。出穂期の早い早生品種で被害が多くなる傾向にあります。上のグラフは予察灯(ライトトラップ)で捕獲された成虫数です。

2 防除時期・対策等

出穂期10日後に防除を実施し、常発地では7日～10日後に追加散布を行います。粒剤は効果の発現までに時間を要するため、3日程度早く処理します。田畦畔の草刈りは出穂2週間前までに実施し、出穂直前はカメムシを水田内に追い込む恐れがあるため行いません。